

と 議会だより とのしよ



元いんちんばい!
土庄町



ぼくも芸術家 ～瀬戸内国際芸術祭 2019 沖之島での作品制作～

6月定例会のあらまし 2-3

委員会の活動報告 4-6

一般質問 (7人の議員が町政を問う) 7-11

まちの元気印 (道上知敏さん) 12

6月定例会は6月21日に開会し、6月24日に閉会しました。
補正予算1件、条例9件、契約4件、財産の取得1件、人事案件1件が提出され、すべて原案どおり可決しました。
一般質問では、7人の議員が町政について質問を行いました。

国内外にアピールを！

非常備消防事務費
柳班の消防積載車購入に対する助成金



60万円

333万円

自治振興助成事業
黒岩自治会へAED、発電機など防災資機材等購入助成 他4自治会振興助成



補正予算の主な内容

主な条例の一部改正

- ◇消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整理に関する条例
10月から消費税が10%に引き上げられることに伴い、各種使用料などの額を定める規定等を改める。
- ◇土庄町立土庄こども園の移転に伴う関係条例の整備に関する条例
土庄こども園本園（旧土庄幼稚園）及び瀨崎分園（旧愛の園保育所）が新園舎に移転することに伴い、関係条例の一部改正、または廃止をする。

土庄町重度心身障害者等医療費支給に関する条例の一部を改正する条例

8月から県内医療機関に限り*償還給付から*現物給付に改める。

*償還給付：受診者が費用を一旦支払い、その後町に申請することにより、費用が還付される方法
*現物給付：受診者は医療機関での支払いが不要で町が医療機関に直接医療費を支払う方法

契 約

◇大部住宅建替事業 C-1 棟建築工事

- 〈契約の方法〉
- 指名競争入札
- 〈契約金額〉
- 5516万5000円
- 〈契約の相手方〉
- (株)中村組

◇大部住宅建替事業 C-2 棟建築工事

- 〈契約の方法〉
- 指名競争入札
- 〈契約金額〉
- 7590万円
- 〈契約の相手方〉
- (株)西崎組

◇大部住宅建替事業 C-3 棟建築工事

- 〈契約の方法〉
- 指名競争入札
- 〈契約金額〉
- 5824万5000円
- 〈契約の相手方〉
- (株)数脇組

◇瀨崎都市下水路事業 大谷ポンプ場機械設備新設工事

- 〈契約の方法〉
- 指名競争入札
- 〈契約金額〉
- 8176万3000円
- 〈契約の相手方〉
- (株)鶴見製作所四国支店

財産の取得

◇消防自動車の購入

- 〈機種〉
- CD-1型消防ポンプ自動車
- 〈台数〉1台
- 〈取得価格〉
- 2141万2600円
- 〈契約の相手方〉
- (有)カードック岡田

人事案件

◇大鐸財産区管理会財産区管理委員の選任

任期満了に伴い、委員の選任に同意。

- 石原 誠一氏 (55歳・肥土山)
- 佐伯 正美氏 (48歳・肥土山)
- 佐伯 一氏 (68歳・肥土山)
- 三木千恵造氏 (73歳・肥土山)
- 清水 利隆氏 (68歳・黒岩)
- 佐竹 久夫氏 (60歳・小馬越)
- 藤原 正暉氏 (72歳・笠滝)

日本遺産認定 ～知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島～

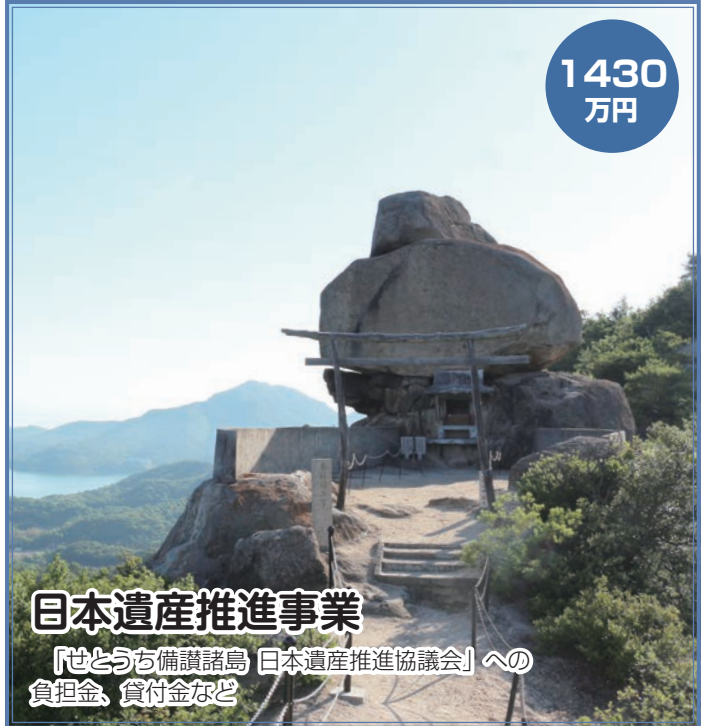
消防団施設維持管理費

小瀬地区警鐘台修繕
豊島硯防火水槽修繕



129
万円

1430
万円



日本遺産推進事業

「せとうち備讃諸島 日本遺産推進協会」への
負担金、貸付金など

令和元年度補正予算

一般会計

2187万6千円増額→

総額90億1687万6千円

請願

◇国に対し「消費税増税
中止を求める意見書」の
提出を求める請願

請願者

10月消費税10%ストッ
プ・ネットワーク
小豆連絡会 小西 隆博

新日本婦人の会小豆支部
村上 久美

紹介議員 福本 耕太
鈴木 美香

討論

【反対】 高橋議員

税金は、誰しも安いほう
がよい。しかし、少子
高齢化で税収が伸びない
中で、年金、医療、介護、
子育てなど社会保障関係
経費が大幅に伸びてい
る。また、国の借金が
1千兆円を超えており、
何らかの財源を確保しな
ければ、多くのツケを後
の世代へ回すことにな
る。以上の理由から、消
費税を増税することはや
むを得ないと考えるので
意見書の提出に反対する。

【賛成】 福本議員

消費税増税の前後で比
べると、国の借金は増税
後に増えている。それは、
消費税増税が景気を悪化
させ、GDPを縮小させ
るため、税収内訳で見
ると、消費税分は増えても、
所得税や法人税など、他
の税収が大幅に減少す
からだ。

史上空前の大儲けをし
ている大企業や大金持ち
への減税をやめ、国民の
可処分所得を増やす政策
を進め、消費を活性化し
て景気回復を図れば、所
得税や法人税など累進税
に係る税金部分の税収が
増えていく。この健全な
税制へと転換すること
で、消費税に頼らず、財
政再建や社会保障の財源
をつくることができる。

百害あって一利なしの
消費税増税に対し反対す
る立場から意見書の提出
に賛成する。

趣旨

今、私たちの暮らしか
地域経済は大変深刻な状
況である。この状況で、
消費税を上げれば、税率
が5%から8%になった
時の大不況が再来する。

加えて税率引き上げと
同時に行う「軽減税率」
には、重大な問題がある。
消費税増税ではなく、税
金の集め方、使い方を見
直し、大企業や富裕層を
優遇する不公平税制を正

すべきである。
また、軍事費や不要不
急の大型工事への歳出を
減らし、暮らしや社会保
障、地域経済振興優先に
税金を使い、内需主導で
家計を温める経済政策を
とるべきである。

6月定例会の審議結果と賛否

議案等	結果	茂木	鈴木	福本	三木	岡野	岡本	高橋	福本	川本	井上	木場	濱野
令和元年度土庄町一般会計補正予算（第1号）	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整理に関する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町立土庄こども園の移転に伴う関係条例の整備に関する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改定する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町子どもに対する医療費助成条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町ひとり親家庭等医療費支給に関する条例の一部を改定する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町重度心身障害者等医療費支給に関する条例の一部を改定する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町看護学生修学資金貸付条例並びに土庄町理学療法士及び作業療法士修学資金貸付条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
工事請負契約の変更	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
工事請負契約の変更	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
工事請負契約の変更	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
工事請負契約の変更	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
消防自動車の購入について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町大鐔財産区管理会財産区管理委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願	不採択	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	—
国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願	不採択	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	—

○：賛成 ×：反対 —：議長（議長は採決に加わりません）

議会の動き

（令和元年5月12日～7月22日）

【5月】

- 15日 5月臨時会
- 22日 議会広報特別委員会
- 23日 小豆地区広域行政事務組合議会臨時会
- 〃 伝法川防災溜池事業組合議会臨時会
- 〃 小豆島中央病院企業団議会臨時会

21日 6月定例会

〃 総務建設常任委員会

24日 6月定例会

28日 町有施設等視察

〃 教育民生常任委員会

30日 香川県広域水道企業団議会臨時会

【6月】

- 1日 庁舎建設事業 第2回ワークショップ
- 6日 総務建設常任委員会
- 7日 教育民生常任委員会
- 14日 議会運営委員会

【7月】

10日 議会広報特別委員会

11日 長崎県平戸市議会行政視察受入

19日 香川県議会少子化対策特別委員会視察受入

22日 香川県後期高齢者医療広域連合議会臨時会

総務建設常任委員会
(6/6)

企画課

ブランドデザインの新策

昨年度に行った子育て層意見交換会、中学・高校生のジュニア協議会、地区協議会、アンケート調査の結果の報告があった。

今年度、この結果を基に人口減少や財政状況、各担当課の方針などを庁内外での会議の中で反映させ、地域の特性を生かした将来像をデザインした計画の策定を進めたい。

《高橋》町民会議的な場を作ってほしい。役場内だけで会議したものを投げかけられると報告だけになってしまふ。
《答》庁内会議と外部の会で協議する計画である。各課に連動する意見も集約しながら最終的には一般の方に入ってもらう会を開催するほうが有意義であると思う。

《岡本》全地区で子育て支援サービスの需要が減少していくとこのことであるが、子どものことを第一に考えてほしい。

《答》子育て支援の意見を集約し反映させていく。

建設課

大谷ポンプ場建設事業

事業計画は、平成24年度から令和9年度までの16年間である。今年度、洪水時排水ポンプを設置し、既設水路と流入水路を接続することで、ポンプ場への流入が始まり、大谷ポンプ場の一部供用開始をし、ポンプ場整備効果を早期に活用したいと考えている。

《岡本》ポンプ場を設置し、いくら吸い出しても潮が満ちて抜けない。水門の整備は考えていないのか。

《答》平成16年の高潮以来、水門の閉鎖、排水管にはフラップゲートを設置し、潮を止めているが、目に見えない場所もあるので巡回して確認している。



エディブルフラワーを使った料理

その他「大部住宅建替事業」の説明があった。

商工観光課

日本遺産の認定

5月20日に文化庁から令和元年度の日本遺産認定の発表があり、岡山県笠岡市、香川県丸亀市、小豆島町と連携して申請を行っていた石の島のストーリーが、日本遺産に認定された。

5月27日には、日本遺産の一体的な事業展開を図るため、2市2町、香川県、岡山県、商工観光団体も含め「せとつち備讃諸島日本遺産推進協議会」が設立された。

今後、2市2町で策定

した地域活性化計画を基に、地域の文化財を総合的に活用して国内外に発信していきたい。

《川本》国からの補助金は各市町がそれぞれ使えるのか。

《答》基本的には2市2町に共通する費用（パンフレット、のぼり等）にしか使えない。

その他「瀬戸内国際芸術祭」の説明があった。

農林水産課

次世代産業育成モデル事業の進捗

今年度の事業計画は、エディブルフラワーとベ

ビーリーフを栽培素材として実証と研究の実践を継続していく。また、太陽光を利用した新エネルギー循環システムを導入し、原理実証に取り組み、コストの見直しを進め、低コスト化の実現を図っていきたくと考えている。

さらに、栽培素材を地元特産品となる可能性のあるもの、販路ネットワークの期待できるものとする。販路の拡大を図り、ビジネスモデルの開発、民間展開へと進めていきたい。

総務課

庁舎建設事業ワークショップ

6月1日に第2回のワークショップを開催した。テーマを「庁舎の外部空間の町民利用スペースについて」と「庁舎の待合ロビーや共用部の町民利用スペースについて」とし、議論してもらった。

屋外トイレや庁舎内のエレベーターの設置基数に関する意見があった。

また、庁舎南側に配置の公用車庫は、商工会側の道路から進入して行く際、見通しが悪い位置にあるため、庁舎近辺に整備するべきではないかという意見があり、設計業者と協議した結果、庁舎に近い場所に整備し、庁舎と公用車庫の間に屋根を設置すれば、雨天時に乗降者の便利も良くなるのではないかとという案が報告された。

《川本》公用車の車庫の位置は、住民サービスに悪いとのことで一番遠い場所にした経緯がある。

壁つきの車庫である限りどこにあっても見通しは悪い。公用車を置くにあたって車庫的な屋根や壁があるのかどうか。

《答》電気自動車の電気設備などが雨に濡れないように、一部は屋根付きを必要とする計画である。最小限で確保したいと考えている。

教育民生常任委員会
(6/7、6/28)

《6月7日開催》

教育総務課
土庄こども園7月保育の実施

新園舎での保育は、7月1日から開始する。

送迎については、周辺の道路が狭いので、進入方法や、年齢別に駐車場を分ける等の決まりを作り、保護者に書面で通知する。現在の園にも掲示している。一定期間は職員が交通整理を行う。

《三木》消防前の交差点が混雑すると思う。緊急車両も通るため、今後混雑する場合、道路拡幅等を考えているか。

《答》現在は考えていないが状況によっては考えなければいけない。

《濱野》子どもの命には代えられないので、広報紙等で一般の車両は、送迎の時間帯は県道へ回っ

てもらおうような周知も必要かと思うが。

《答》分らない部分が多いので、交通整理員を配置した中で様子を見て、必要であれば考えたい。

《岡野》子育て支援センターをこども園の中に取り込むということだが、従来の広さに対して今後の広さは対応できるのか。
《答》今までの行事ができなくなることは、スペース的にはないと思う。

《岡野》送迎方法の周知は、書面で通知することだが、保護者に集まってもらい周知する方法が良い。周知の方法も一度検討してほしい。



7月1日から保育を開始した土庄こども園新園舎

生涯学習課

宝生院シンパク保存活用計画

文化財保存のため平成28年度から5年計画で行っている「再生事業」に加えて、今年度、地域の宝物である宝生院のシンパクの保全状態や管理状況の現状と課題を整理し、中・長期的な観点から保存及び活用の取り組み方針を定めるため、「保存活用計画」を策定する。

その他「中央公民館空調設備改修工事」の説明があった。

住民環境課

最終処分場及び汚泥再生処理センターの進捗

最終処分場の用地について専門家の意見は、地滑りの可能性のある地盤であること、最終処分場のような永久にごみ等が残る施設の建設には不向きな土地であるとのことである。

汚泥再生処理センターの用地は、背後地が保安林であることから、安全対策の防壁が用地内に必要であることから、規模によっては、川までの幅が狭いため、必要な面積を確保できず、建設が難しいものと考ええる。

両案件とも2年を要したが、断念の方向となり、次の候補地選定、現在の施設の再利用を視野に入れ、住民に不便のないように施策を進めていきたいと考えている。

《濱野》現在の施設の延長を考えているのか。
《答》施設を造るのに最低5年かかる。各自治

会との協議を進めていくことになる。

《岡野》何度も場所が移転して、その度に調査が必要になり、費用を要する。必要な事業であるが、次の候補地の選定は、慎重に、絶対ここでいけるという確信を持てる場所を探してもらいたい。

中間処理施設の進捗

中間処理施設を整備することにより、埋立最終処分場の小型化が可能となると考えている。候補地も選定しやすくなるので、早期の整備を目指したい。令和6年度の竣工を目途に小豆島町と協議を進めていきたいと考えている。

《三木》整備することで数量がどのくらいになると想定しているか。

《答》機械の規模によるが、選別の種類を分ければ分けるほど埋立量は少なくなるが、その分コストが上がる。2分の1程度の埋立量を目指してい

る。それに応じた機械のコストが出てくるので、経済性も確認しながら協議している。

福祉課

重度心身障害者等医療費助成方法の変更

現在は、医療機関を受診した時、本人が一旦支払いをし、その後、申請によって町から全額または半額を返す償還給付であったが、8月から県内の医療機関では、窓口での支払いが不要な現物給付にする。これにより申請手続きなどの負担や手間が軽減され、受診しやすい環境づくりができるものと考えている。

《6月28日開催》

委員より、四海こども園が老朽化しているため、施設の視察に行きたいと申し出があり、委員会としては1つだけの施設ではなく、委員会所管の施設について検討した。今後、検討結果を基に施設の選定を行い、視察を行う。

議員が町政を問う



6月定例会では、7人の議員が一般質問を行いました。全文記録（会議録）は、土庄町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。



QR code

質問議員	質問事項
木場隆司	○ごみ最終処分場及びし尿処理場の進捗状況
鈴木美香	○町の財政について ○ごみ問題について ○8050問題について
三木俊明	○現在の医療・福祉政策の取り組みに対する町長の認識と今後の覚悟は
岡野能之	○観光事業の取り組み ○災害時における町の防災・減災の取り組み
高橋正博	○観光施策と高齢者の就労 ○町の固定資産について
岡本経治	○最終処分場について ○防災力向上について ○緊急車両出動時の道路事情について
福本耕太	○豊島航路、住民「積み残し」解消を ○交通弱者の移動手段確保の強化を ○三枝町長は納税証明書を公開・開示すべき

《土庄町ホームページ》 <http://www.tonosho.kagawa.jp>



木場隆司 議員

ごみ最終処分場及びし尿処理場の進捗状況

木場 ごみの最終処分場及びし尿処理場の進捗状況について尋ねる。

現在のごみ最終処分場及びし尿処理場は、各自治会との契約期限が令和3年3月末までとなっている。この件について執行部は、次の候補地選定に取り組み、交渉も順調に進捗していたが、ごみ最終処分場は地質調査のデータをもって、学識経験者に相談し、大変厳しい結果となった。また、し尿処理場は、安全対策に問題があり、断念という結果となった。

両案件ともこれから再度候補地選定となると、契約期限までには新施設の整備ができないと思うが、今後の取り組みについて尋ねる。

住民環境課長 両案件とも、これまでの計画は、断念することとなった。

ごみの最終処分場は、埋立残容量も少ない状況であり、新たな処分場が建設されるまでの間、他市町の最終処分場への搬出を含めた検討をしていきたい。また、し尿処理施設は、既存の施設である御影浄苑の運転期間の延長について、地元自治会、漁協と協議しながら、適切な修繕計画を立て、住民の皆さまの生活に支障のないよう進めていきたい。両案件ともに、早急に候補地選定を進め、既存の施設の再利用を図りながら、検討していきたい。

木場 次の候補地選定は、全くゼロなのか、ある程度目は立っているのか。また他市町というのは、小豆島町のことを言っているのか。

住民環境課長 現在、具体的にこのことというのは決まっていない。検討しているところである。

また他市町というのは、1つの案として検討しなければならぬと考えている。

木場 現在の契約期限を延長する話について、地元自治会の反応はどうか。

住民環境課長 これから協議を進めていく。

木場 両施設とも契約期限が令和3年3月末となっているが、これから候補地の選定、事業の完成となると相当の期間を要し、一定期間は延長せざるを得ないと思われるので、地元との協議を十分に行い、スムーズな事業の進捗を望む。



残容量が少なくなっている一般廃棄物最終処分場(小江)



鈴木美香 議員

町の財政について

鈴木 近年大型の建物、例えば小豆島中央病院、消防署、こども園等が建てられ、今後も役場、沖之島架橋と続く。費用の約8割は国の交付金で賄えるとのことだが、国こそ一兆円もの借金があり、そのツケが保険料値上げ、年金減額に回っていると思われる。少子高齢化で生産労働人口が激減し、財源の確保が難しくなる一方で先送り財政は許されない。あれを作るには何を削るかというシビアな選別が必至だが、町にはその姿勢が見えない。町民は、将来の財政にかなり危機感を持っているが、町長はどう考えているか。

で、現状を考慮し、国・県補助金、交付金等の補助があるもの、また辺地債・過疎債等財政措置として普通交付税に算入される有利な町債の対象であるか等を協議の上、財源の確保できる事業を優先的に実施している。

鈴木 沖之島架橋が、費用対効果があると考えにくく、町民も疑問を持っているが。

町長 町民には報告してきたつもりだが、費用は正式ではないが、10億円台と思う。現在は渡船だが、橋がかかってもかかる費用は同じくらいで問題ない。

鈴木 議員もだが、行政ももっと情報を発信してほしい。

ごみ問題について

鈴木 マイクロプラスチックが、世界中で問題になっている。町では最終処分場が決まらない差し迫った課題がある中で、ごみゼロを目指す方



三木俊明 議員

現在の医療・福祉政策の取り組みに対する町長の認識と今後の覚悟は

三木 町は、まちづくりの指針となる「土庄町グランドデザイン」を策定中だが「まちづくり」の第一は、今、生活をしている町民の「安全・安心」の確保であり、その基盤となる「医療と福祉の充実」であると考えている。

そこで、小豆島中央病院と両町の関係をどのように認識し、どのような取り組みを行っているか。

健康増進課長 地域医療を守り、より充実させるためには、小豆島中央病院が健全で安定した経営体制を維持することが喫緊の課題である。町では病院への財政支援のほか、開設者協議会、構成町連絡調整会議を開催

し、連絡・連携を行い、病院の運営状況等について協議を行っている。また病院では経営診断を行い、経営改善・人事評価・接遇を三本の柱に、より良い病院経営を目指している。今後も、病院、小豆島町、医師会等と連携し、行政の立場からも意見し、取り組んでいく。

三木 地域福祉の核となるべく地域包括ケアシステムの構築が叫ばれているが、どのような取り組みをしているのか。

健康増進課長 地域包括ケアシステムの構築は、町の枠を超え小豆島中央病院を核として、小豆島療園地域包括ケア連絡会を設置し事業を行っている。システムの構築には、あらゆる団体が参画、協働することが不可欠であり、島民会議との協同による研修会や講演会の開催、関係機関で構成する多職種連携会議の開催などを行っている。

また、各地域における介護サービスの拠点整備を進めたほか、介護人材の養成事業にも取り組んでいる。今後は、広く住民に啓発を行い、住民も参画したシステムづくりをしていきたい。

三木 町民にとって非常に重要な施策であるので、引き続き進めていきたい。町長は、現在の取り組みについて、どのような認識を持ち、今後の「地域医療と地域福祉」をどのように進めていく覚悟か。

町長 小豆島中央病院は、両町とも、住み慣れた地域で安心して豊かに暮らせるまちづくり、島づくりには最も重要なものと考えている。地域包括ケアシステムは、住み慣れた町で、安心して人生の最期が送れるまちづくりを目標としている。

住民・自治体・介護事業者・町内会・ボランティアの方が一体となり、その地域を守り作っていくのが大前提である。その核となるのは小豆島中央病院であり、今後も両町

が一緒になって、今まで以上に取り組んでいく。



島内の医療・介護の関係者が集まる多職種連携会議

三木 この町、この島の「地域医療」と「地域福祉」を充実させるためには行政、住民、議会が一体となって、その核となる小豆島中央病院を支えていかなければならないということは誰もが認識している。

何のため、誰のための医療・福祉の充実なのか。全て町民のためである。病院の現状、町民の思い、行政の責任、それぞれ言い分はあるが、現場の意見、町民の思いを取り入れた「医療・福祉政策」の展開を町民は期待している。議会も正確で力強い情報発信を行っていききたい。



たくさんのごみが海岸へ流れ着いている

向づけを考えてほしい。

住民環境課長 プラスチックごみの問題を解決するためには、ごみの分別の徹底、ポイ捨ての取り締まり強化、出すごみの量を減らすこと、プラスチック製品が行きわたったライフスタイルの見直しが必要で、広報紙、自治会回覧を通じて周知やイベントで啓発活動をしている。

今後もしサイクル、ごみの発生抑制の両輪で進める。ごみ問題は、住民全員で取り組まなければならない問題なので、今後も周知・啓発に努めたい。

8050問題について

鈴木 80歳代の親が50歳代の子どもの生活を支えることを8050問題と言われているが、町でも介護を受けている高齢者の中に、中高年の働いていない子どもがいる家庭があると聞いた。難しい問題だが、実態を調査し対策を立てなければいけないと思うが、どう取り組んでいるか。

福祉課長 1980年代には、ひきこもりは若年の問題と捉えられていたが、長期高齢化により、ひきこもりの子が50歳代となり、今の8050問題と変遷している。昨年度の香川県が行ったひきこもりに関する実態調査では、小豆地域で46人と判明した。現時点では、対応可能な体制づくりには至っていない。今後、香川県ほか関係機関と協力し、適切な体制づくりを含めて、対応していきたい。

観光事業の取り組み

岡野 瀬戸内国際芸術祭春会期以降、公共交通、交通渋滞、駐車場の整備の今後の対策は。

商工観光課長 海上交通は、夏会期及び秋会期においても、臨時航路を継続し、豊島航路は家浦・宇野・土庄間を増便予定である。路線バスは、春会期に引き続き中山線の増便を継続、また夏会期からは、四海線を増便予定である。

岡野 夏会期に向けて、小江、沖之島の準備、対策は。

商工観光課長 路線バスは、四海線を3便増便。渡船は、増便及び時間の延長を検討している。

また、渡船乗り場周辺には駐車場及び駐輪場を確保している。

岡野 外国人観光客の対応は。

商工観光課長 各案内所において翻訳アプリを利用している。豊島では、中国人観光客向けに、豊島マップに中国語表記を加えた。

岡野 スマートフォンアプリの活用は。

商工観光課長 現在瀬戸内国際芸術祭では、無料の公式アプリを配信している。三豊市等が行っているアプリの活用は、費用対効果を考え、参考にする。

岡野 町長の観光に対する考えは。

町長 寒霞溪もあり、日本遺産にも登録された。また、土洲海峡、エンジンロードを中心に、観光客のニーズを捉え、町だけでできない部分もある

ので、島一つとなって観光客の誘客を図る。

岡野 数値目標を定めて、観光客増に向け取り組んでいただきたい。

災害時における町の防災、減災の取り組み

岡野 土砂災害ハザードマップの更新状況は。

総務課長 当該区域等の追加、また制度改正等の最新の情報を反映させ更新する。ハザードマップの完成後、公民館、集会所、各世帯に配布し、周知を行う。

岡野 町内で砂防ダム新設の今後の計画は。

建設課長 香川県への要望活動を行い、香川県と共に地域における安全性の向上を図っていく。

岡野 大雨、台風等により町内で、冠水、浸水する箇所の対応は。

建設課長 逆止弁の設置及び護岸の嵩上整備は、



更新作業が進められているハザードマップ

今年度台風時期までの施工を予定している。ポンプ場整備は、測量・設計及び用地取得に向けて進めている。

岡野 ハザードマップに掲載している避難場所と町指定避難場所の違いは。

総務課長 ハザードマップには町指定避難場所と避難施設利用の協定を結んでいる施設すべてを掲載している。ハザードマップの更新の際、表示方法の改善を検討する。

岡野 町は、避難時に食料、毛布を持参するように促しているが、毛布を持参することで二次災害を起こす可能性があることを考慮し、対応していただきたい。



高橋正博 議員

観光施策と高齢者の就労

高橋 2017年に日本の観光収入が世界第10位になった。日本の観光の潜在能力と実行能力の高さ、観光地の努力は素晴らしいと考える。

そこで、ここ5年間の小豆島に来島した人数と観光業関連売り上げ、雇用の推移は。

商工観光課長 ここ5年間の観光入込客数は、120万人前後で推移している。なお、3年に1度の瀬戸内国際芸術祭開催の年には140万人前後に伸びる状況である。観光に関連する業種（宿泊業、サービス業、卸売業、小売業、製造業など）の売上額は、卸売業や小売業以外の業種で1割から2割程度減少している。

雇用は、サービス業、製造業では、常に人手不足で有効求人倍率が4倍を超えているところもある。

高橋 今後、町における観光施策は最重要施策と考える。GDPの底上げはもちろん、雇用問題も重要施策と思う。そこで問う。現在町内の年金総支給額は他町と比較してどうか。

福祉課長 年金総支給額について、県内の町の平均額と比較すると年間1万2千円、県全体との比較では、年間8千円低く、小豆島町と比較した場合は、年間3万2千円低い状況である。

高橋 国民年金受給者が多く、高齢者の中には年金が低いので働きたいという意欲が高い人も多いのではないかと。やる気のある高齢者に活躍してもらい、活力ある町にするのがどうか。



岡本経治 議員

最終処分場について

岡本 香川大学教授の意見を聞き断念となったが、依頼前に町として、調べる事ができたのではないかと。これまでかった調査費用はいくらか。

住民環境課長 調査等の費用は、29年度と30年度で約9千5百万円である。

岡本 税金で膨大な費用をかけて結果は断念となった。しっかりと精査して取り組んでほしい。町内の収集運搬業者の意見を聞きながら、県に話をし、灘山を最終処分場に行けるように折衝することは可能か。

住民環境課長 灘山の土地は、裁判が結審したので再度、次期候補地の1

つとして検討したい。

岡本 最終処分場の調査費に約1億円、灘山の裁判も約2百万円かかっている。灘山も検討の余地があるという課長の答弁であるが、町長の見解は。

町長 選定候補地の中で馬越と決定し、高松の業者に委託して進めてきた。今後は、地元の専門業者と町民の幅広い意見も聞きながら、ここが一番良いという話を聞かせてほしい。精査しながら考えていく必要がある。

岡本 町長がリーダーシップをとって、挽回に努めてもらいたい。

防災力向上について

岡本 災害時の授乳室の設置、液体ミルク、オムツ、毛布などの備蓄、その周知をどのように行っていくのか。

総務課長 授乳室は、避難所の別室等を活用し、プライベートに配慮する。住民への周知は、町広

報等を活用する。食料や日用品の備蓄、避難時の持参をお願いしているが、避難が長期化する場合などの際には、町の備蓄食料を提供する。乳児用液体ミルクのほか、乳幼児や高齢者に配慮した食料の導入を考えている。

岡本 賞味期限・消費期限切れの非常食の活用方法は。

総務課長 備蓄食料は、期限前に地域イベントでの配布、総合防災訓練の炊出し、消防団活動、防災関係の周知・啓発事業での活用している。また、フードバンク香川等への提供などの制度も活用していきたい。



廃棄することなく有効活用を

緊急車両出動時の道路事情について

岡本 平成29年6月に質問した際、関係機関と検討するとの答弁があった。その後は。

建設課長 西消防署北側に都市計画道路「土庄八幡線」の道路橋として計画することが望ましい。今年度策定予定のグラウンドデザインにおいて、路線整備の重要性を関連づければ必要性が高まる。

岡本 土庄こども園への通園が始まり、朝夕の混雑が予想される。おんばた会館の前に一番短い距離で橋脚を造り、緊急車両と住民が共有することを町長はどう考えるか。

町長 県の道路課とも相談し、車の流れを注視し見守っていく必要がある。

岡本 警察の見解も聞き、しっかりと協議し、子どもたちの安心・安全第一で通行できる道路事情を考え、進めてほしい。

商工観光課長 高齢者がそれぞれの知識と経験を活かしながら、地域の活性化の担い手となっただけのように関係機関と連携していく。

高橋 高齢者に働いてもらうために、観光業がもっとも有効で現実的であると思う。よって観光施策に力を注ぐことが一番効率的な活性化施策と考える。

町の固定資産について

高橋 人口減少、地方経済衰退などで土地、建物等の相続人が決まらず、放置されたままの固定資産が増加していると聞くと、どういふ状況か。

税務課長 所有者の方が死亡後、相続登記されていない土地等の件数は、把握する資料がないため正確な状況は不明であるが、増加傾向にあると感じている。

高橋 町は、活用できる町有地を保有している。そこで、町有地の管理に

ついて、町長をトップにした専門チームを編成し、有効活用を図るべきだ。有効活用の企画、運営、管理を任せる財団法人を立ち上げるべきであると考えるがどうか。

総務課長 町有財産は、住民サービスの向上や行政目的の実施のために活用する必要がある。厳しい財政状況の中、財政健全化の観点から利用計画のない土地は、積極的に売却・貸付を進めている。町有地の有効活用は、現在策定中のグランドデザインの中で各課、各施策との整合を図り、十分な検討を通じ有効活用を努めるとともに、利用計画のない土地は、より一層売却等に取り組みたい。



町有地の有効活用を

豊島航路、住民「積み残し」解消を

福本 瀬戸芸2019春会期に、町が実施した対策と結果は。

企画課長 混雑が予想される土、日、祝日の夕方、家浦・宇野間を1往復増便した。「積み残し」があった場合は、報告を受けると船会社との連携を強化してきた。結果、春会期の「積み残し」はなかった。夏会期も同様の体制で住民の足の確保に努めたい。

福本 私の聞き取り調査でも今期はなかった。住民の「積み残し」が問題となった当初、町は「仕方ない」「町が取り組むべき問題ではない」とい



豊島住民にとって欠かせない豊島航路

う姿勢であった。しかしこの数年、町は行政の責任として認識するようになった。この改善は重要であり、評価している。豊島航路は住民の「生活航路」であり、観光客の「旅の航路」とは重みが違う。一層の努力を求めたい。

交通弱者の移動手段確保の強化を

福本 昨今、高齢者による自動車運転死亡事故が多発しており、わが町にとっても重要な問題である。この問題は、免許証

返納を促すだけでは解決しない。高齢者が免許証返納後に安心して暮らせる環境の整備こそが重要である。そこで、自主返納が大幅に伸びている茨城県大子町の政策例を紹介する。この町では、免許返納した高齢者にタク

シー料金の4分の3を補助する制度を実施している。この政策をわが町でも実施してはどうか。また、実施した場合の費用は。

企画課長 自主返納者に対してわが町では現在、1人当たり2万5千円相当のバスICカード、回数券を発行しており、この施策は、路線バスの維持確保も兼ねている。

また、自主返納率は県内2位である。大子町の実施状況に合わせてタクシー料金助成を実施した場合、年間620万円程度が必要になる。また、大子町のように毎年利用可能な制度として実施した場合、単純計算で単年度費用は、620万円×年数となる。

福本 バス利用の補助も必要だと思うが、バス利用が困難な高齢者、障害者へのタクシー補助は現在、通院にしか使えない。この制度を実施すれば、日常生活もカバーできるし、介助者も助かる。社会実験を検討してほしい。

三枝町長は納税証明書を公開・開示すべき

福本 町長は、議員時代に1790万円の固定資産税を滞納し、税務課による納税相談に応じず逃げ回り、違法な「税逃れ」を行った経緯がある。こうした経緯から、町長や行政が何万回納めていると言っても、証拠がなければ納得できない。町長は、住民にきちんと説明をする立場から納税証明書を公開・開示するべきと考えるがどうか。

町長 現在納税義務がある税金は、全て支払いを済ませている。公表する義務はないので、証言をもって証明する。

福本 証拠を出して証明である。あなたは違法に「税逃れ」したことについて、住民や町職員に対して贖罪の意識はないという認識でよいか。

町長 いろいろな取り方がある。

道上
知敏さん



道上さん

今回は、介護施設で利用者の方に歌謡曲を通じて明るく楽しく過ごしてもらうことを目的に訪問活動されている道上知敏さんにご登場いただきます。

Q 活動の内容は。

A 介護施設を月に1回訪問し、歌謡曲と一緒に歌ってもらっています。

当初は、4施設への訪問から始めて、今では島内9施設（土庄5施設）を訪問しています。今年の7月で10年になります。

Q 活動を始めた時期ときっかけは。

A 平成21年7月から始めまし

た。平成20年に母が亡くなり、短い期間ではありましたが、介護の大変さを実感しました。施設でお世話になったことに感謝して、自分にできることはないかと考えて、歌謡曲による訪問をすることにしました。

長い人生を過ごしてきた先輩に、その時代の歌謡曲を声に出して歌ってもらうことにより、歌が流行していた時代を思い起こし、肉体的、精神的な健康を取り戻してもらいたいと思っています。

Q 活動を通して感じることは。

A 現在、施設を利用しての方は、概ね80歳以上の方が多く、この世代の方は、人前で歌を歌ったりすることが少なかったためか、声を出すこと（歌うこと）に消極的である方が多いですが、潜在意識の中にその時代の歌を記憶しています。

訪問回数を重ねることによって、少しずつではありますが、口を動かしたり、声を出すようになったりすることを感じ、歌は心の潤滑剤の役割をしていることを実感します。

Q 活動で苦労されている点は。

A 特に大きな苦労は感じませんが、単独で歌いたがる人もおり、歌っている人は満足しても、他の人は聞くだけになってしまっています。カラオケ店のようになると本来の目的から逸脱するの迷うところですよ。

Q 今後の活動や目標は。

A 施設利用者の年齢が徐々に戦前生まれから戦後生まれに変化してきます。育った社会背景の変化と同様で、歌の好みも多様に変化してくるので、それに対応できる内容にすることが必要と考えています。

昭和の歌謡曲は、日本の伝統芸能文化の中で完成した日本人の心を表現する素晴らしいものです。

さらに歌謡曲を勉強しながら、社会貢献と個人の音楽活動を共に努力したいと思っています。



車に機材を乗せ訪問している



デイサービスでの活動の様子

道上さんは、お母さんが亡くなられたことをきっかけに自分のできることは何かと考え、行動を起こされました。

また、平成24年にビクター認定講師を取得、蛙子池で発声トレーニングを行い、実力を養われています。

ますますの活躍で施設利用者に限らず、たくさんの人を楽しませていただきたいと思います。

編集後記

7月に土庄こども園開園。そして参院選がありました。新政党、年金、消費税など、若い人にとっても身近で関心が高い選挙になったのではないのでしょうか。

私自身も議員になって3カ月。まだまだ勉強の日々ですが、少しずつ分かってきたのは、まちをつくっていくのは一部の人ではなく、「住民一人ひとりと」だということです。私の住む豊島でも、今、変革期を迎えています。若い人、多様な人たちの意見やアイデアも取り入れられる地域にならないければ、今後、地域として存続が難しくなります。広い町内に議員は12名います。議員は公益のために活動することが職務です。気軽に声がけください。ともに知恵を振り絞りましょう。

《茂木邦夫 記》

議会の
生の声を聞いて
みませんか?

次回定例会は
9月中旬から
の予定です

詳しくは
議会事務局へ ☎62-7011

議会日程は町ホームページでもお知らせ
しています